

市政記者各位

令和7年5月21日

2025年(第35回)福岡アジア文化賞



受賞者発表

アジアの学術研究や芸術・文化の分野で顕著な業績をあげた方を顕彰する福岡アジア文化賞。

第35回目となる今年の受賞者は、この3名の方々に決定しました。

授賞式は9月16日(火)に開催予定です。



大賞 高良 倉吉 (77歳)

歴史学者

琉球史研究の多方面に新境地を開いてきた歴史の表現者

- ・二度にわたる首里城正殿復興事業に関わり、2019年から首里城復元に向けた技術検討委員会委員長として傑出した貢献を行う。
- ・琉球・沖縄史を踏まえたピースフル・ラブ・ロックフェスティバルの企画、NHK大河ドラマの時代考証など、活動は多彩である。琉球大学名誉教授。
- ・綿密な資料分析、グローバルな視座による歴史観、卓越した行動力、分野を超えた企画立案のすべてを統合し、琉球史学を学術研究から実践の場へと広げている。



学術研究賞 ペク・ヨンソ (71歳)

歴史学者

民衆や市民の視点から東アジアを考察する現代史研究者

- ・韓国を代表する中国現代史研究者であり、歴史研究における学術的功績に加え、社会科学・人文科学において指導的な役割を担う。延世大学校名誉教授。
- ・国境を横断して、民衆や市民の視点から「東アジア言説」を展開してきた思想家でもあり、その著書は広く翻訳され、知識人などの共感を獲得している。
- ・東アジア人としての思想的営為は、現代世界の困難な諸問題に取り組むための重要な指針を示している。

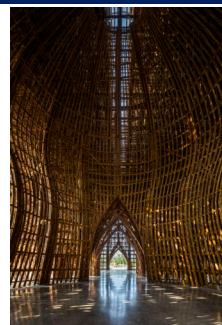


芸術・文化賞 ヴォ・チョン・ギア (48歳)

建築家

エコロジカルな建築のあり方に斬新な提案を行っている建築家

- ・急速に発展するベトナムの都市課題を解決する建築のあり方を追究し、環境に優しいエコロジカルな建築の姿を提示。
- ・日本で建築を学び、地域の環境や植生に配慮した建築デザイン、竹や木を建築材料として扱う構造デザインなどの一連の作品で広く知られる。



©Hiroyuki Oki

2025 年（第 35 回）福岡アジア文化賞 公式行事日程（予定）

令和 7 年 5 月 21 日時点

行 事	日 程	場 所	内 容
授賞式	9月16日(火) 18:30～20:00（予定）	福岡市民ホール （中ホール）	授賞式典 ※当日：会場参加
市民フォーラム	<大 賞> 高良 倉吉 9月17日(水) 夜	アクロス福岡 （円形ホール）	市民を対象とした 受賞者による講演会等 ※当日：会場参加 ※アーカイブ配信あり
	<学術研究賞> ペク・ヨンソ 9月17日(水) 午後	アクロス福岡 （円形ホール）	
	<芸術・文化賞> ヴォ・チョン・ギア 9月15日(月) 午後	福岡市美術館 （ミュージアムホール）	
学校訪問	9月17日(水) 〃 9月18日(木) ※日程調整中	福岡市内の小学校・ 中学校・高校等	受賞者が学校を訪問し、 生徒と交流

※公式行事のお申し込みは、7月中旬開始予定です（事前申込制）

【問い合わせ先】

総務企画局国際部アジア連携課（福岡アジア文化賞委員会事務局）担当：長岡、山守

お問い合わせ先

Tel：092-711-4930 Fax：092-735-4130

福岡アジア文化賞 URL

<https://fukuoka-prize.org/>

写真素材ダウンロード URL

<https://fukuoka-prize.org/presses/materials->



大賞 高良 倉吉

【贈賞理由】

高良倉吉氏は、琉球史研究の多方面に新境地を開いてきた歴史家であり、同時に、歴史の表現者、プロデューサーでもある。その活動は琉球・沖縄史を踏まえて、今も続くピースフル・ラブ・ロックフェスティバルの企画、NHK 大河ドラマ時代考証など多彩である。二度にわたる首里城正殿復元事業には特に傑出した貢献を行ってきた。

高良氏は、1947 年に沖縄県伊是名島に生まれた。愛知教育大学卒業後、沖縄県沖縄史料編集所専門員、沖縄県立博物館主査、浦添市立図書館館長を経て、1995 年から 2013 年まで琉球大学法文学部教授を務めた。2019 年から首里城復元に向けた技術検討委員会委員長の職にある。1992 年には九州大学より博士（文学）の学位を受けている。

高良氏は、琉球・沖縄の独自性は古琉球（12 世紀のグスク時代から 1609 年島津侵入事件まで）に遡る必要があるとの問題意識のもと、歴史関係資料の解読を基礎とする緻密な研究手法と、アジアの、さらにはグローバルな視点によって、琉球王国の勃興と明の冊封体制のネットワークにおける繁栄を描く『琉球の時代—大いなる歴史像を求めて』（1980 年）、奄美地方から先島地方に及ぶ王国内部のガバナンス体制を解明した『琉球王国の構造』（1987 年）、『琉球王国史の課題』（1989 年）を著し、琉球王国の全体像を明らかにした。島津侵入事件以後、琉球王国は、日本の幕藩体制に取り込まれるが、明との冊封関係は維持するがゆえに「日本の中の外国」となったことで、氏は日本史の側にも「新しい日本史像」が必要になると迫る。

高良氏は、沖縄戦（1945 年）で焼失した首里城復元プロジェクトには 1986 年から関わってきた。圧倒的な資料不足という困難な状況にも関わらず、塗装彩色の細部に至るまで、1768 年に行われた正殿の大規模修理の記録（「寸法記」）、旧琉球王家が伝えた尚家文書、昭和初期の解体修理記録、古老への聞き取り等を重ね合わせ、復元作業を歴史の視点から支えた。琉球王国の国営事業としての朝貢貿易の司令塔であり、琉球のソフトパワーを外国賓客に披歴する場であった正殿の復元には、氏の歴史研究手法とグローバルな視点、そして「琉球」という言葉を沖縄県民のアイデンティティを表す言葉として取り戻したい、さらにそれを形にしたいという氏の思いが結実している。

綿密な国内外の資料分析、グローバルな視座から得られる客観的な歴史観、歴史的に重要な国内外の場所には必ず足を運ぶ卓越した行動力、歴史学の分野を超えた企画立案、これらすべてを統合し、琉球史学を、学術研究から現代における実践の場へと広げてきた高良倉吉氏は、まさに「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。

第 35 回福岡アジア文化賞 大賞

高良 倉吉

日本
歴史学者
琉球大学名誉教授
1947 年 10 月 1 日生まれ（77 歳）

経歴

1947 沖縄県伊是名島生まれ
1971 愛知教育大学卒業（教育学部）
1973 沖縄県沖縄史料編集所専門員
1987 沖縄県立博物館主査
1988-94 浦添市立図書館館長
1992 九州大学博士（文学）
1995-2013 琉球大学法文学部教授
2013- 琉球大学名誉教授
2013-14 沖縄県副知事
2019- 内閣府沖縄総合事務局「首里城復元に向けた技術検討委員会」委員長
その他、首里城正殿基本設計委員会委員等、NHK 大河ドラマ「琉球の風」監修者、NHK 時代劇「テンペスト」時代考証担当、九州国立博物館評議員などを歴任

主な受賞歴

1981 第 2 回沖縄タイムス出版文化賞（『琉球の時代』）
1988 第 10 回沖縄文化協会賞 比嘉春潮賞（『琉球王国の構造』）
1988 日本青年会議所 第 2 回 TOYP 大賞（地域活性化への貢献）
1990 沖縄タイムス社 伊波普猷賞（『琉球王国史の課題』）
1997 沖縄協会 第 18 回沖縄研究奨励賞（琉球王国史の研究）
2004 国際交流基金 国際交流奨励賞・日本研究賞

主な著作

- ・『琉球の時代：大いなる歴史像を求めて』 筑摩書房, 1980.
- ・『沖縄歴史への視点』 沖縄タイムス社, 1981.
- ・『御教条の世界：古典で考える沖縄歴史』 ひるぎ社, 1982.
- ・『おきなわ歴史物語』 ひるぎ社, 1984.
- ・『続・おきなわ歴史物語』 ひるぎ社, 1987.
- ・『琉球王国の構造』 吉川弘文館, 1987.
- ・『琉球王国史の課題』 ひるぎ社, 1989.
- ・『琉球王国』 岩波書店, 1993.
- ・『「沖縄」批判序説』 ひるぎ社, 1997.
- ・『アジアのなかの琉球王国』 吉川弘文館, 1998.
- ・『沖縄イニシアティブ』（共著）ひるぎ社, 2000.

- 『「沖縄問題」とは何か』（共著）弦書房, 2007.
- 『琉球王国』 翰林大学, 2008
- 『琉球王国史の探求』 榕樹書林, 2011.
- 『沖縄問題：リアリズムの視点から』（編著）中央公論新社, 2017.
- 『琉球的時代：偉大歴史的圖像』 台北, 聯經出版, 2018.
- *The Legacy of the Ryukyu Kingdom: An Okinawan History*, 出版文化産業振興財団, 2025.

学術研究賞 白 永 瑞

【贈賞理由】

白永瑞氏は、韓国を代表する中国現代史研究者であり、国境を横断して、民衆や市民の視座から「東アジア言説」の展開を主導する思想家でもある。

白氏は、1953 年韓国仁川に生まれた。1981 年にソウル大学校東洋史学科卒業後、ソウル大学校で文学博士号（東洋史）を取得、翰林大学校を経て 1998 年から 2018 年まで延世大学校教授として、現代中国学会や中国近現代史学会の会長、延世大学校国学研究院院長などの要職を歴任するとともに、韓国の知的世界に重大な影響を及ぼした、文学と社会評論を包括する雑誌である季刊『創作と批評』の編集主幹を担うなど、中国研究のみならず社会科学・人文科学における指導的な役割を担った。その間、ハーバード大学、台湾中央研究院、名古屋大学、九州大学などでの在外研究にも取り組む。

1911 年の辛亥革命から 1919 年の五・四運動を経て国民革命として展開された「国民会議運動」に焦点を当て、それを支える学生運動に現れた大学文化を「社会変革的自我」の形成というレンズを通して究明したのが、白氏の博士論文に基づく『中國現代大學文化研究』（1994 年）である。本書には、1970 年代から 80 年代にかけて韓国の民主化に貢献した学生運動に深く関わった氏の問題意識が反映されている。1992 年まで中国と国交がなかったため、蓄積が少なかった韓国における中国研究の第二世代リーダーとして、韓国の視点を活かしながら日中台における研究に匹敵するまで、その研究水準を引き上げるのに寄与した学術的功績は大きい。

そして、白氏の真価が最も発揮されたのが、氏の歴史研究に立脚して、日中台などの思想界を巻き込んで「東アジア言説」をめぐる議論を主導したことである。『共生への道と核心現場』（2016 年）や『東アジア言説の系譜と未来：代案体制の道』（2022 年）に表れた、氏の主張の核心は「実践的課題としての東アジア」である。不断の自己省察に立脚しつつ「東アジア人」としてのアイデンティティを模索する知的かつ実践的な過程として、「近代に適応しながらも近代を克服する」という二重の課題を担う東アジアを位置づける。しかも、政府や国家の関係としてではなく、民衆や市民が生活する「核心現場」の視点から東アジアを考察し、構想しようとする思想的な営為である。氏の主要著作は日中台でも広く翻訳され、知識人などの共感を獲得してきた。

米中対立の激化や北朝鮮の核開発などに起因して地域の緊張が高まる中、日韓関係が大きく変容する過程で歴史問題などが顕在化する。東アジア人としての白永瑞氏の思想的営為は、こうした困難な諸問題に取り組むための重要な指針を示しているという点で、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。

第35回福岡アジア文化賞 学術研究賞

白 永 瑞

韓国

歴史学者

延世大学校名誉教授

1953年8月7日生まれ (71歳)

経歴

1953 韓国、仁川生まれ
1981 ソウル大学校文理科大学東洋史学科卒業（文学士）
1984 檀国大学校大学院修士号（文学）
1986-94 翰林大学校史学科専任講師、助教授、副教授
1990-92 ハーバード燕京研究所客員研究員
1993 ソウル大学校大学院博士号（文学）
1994-2018 延世大学校史学科副教授、教授
2001 台湾、中央研究院近代史研究所客員研究員
2001-02 名古屋大学高等教育研究センター客員教授
2005 韓国、現代中国学会会長
2005- 『臺灣社會研究』編集委員
2005-08 大統領直属東北亜時代委員会委員
2006-07 韓国、中国近現代史学会会長
2006-09 東北亜歴史財団諮問委員会委員長
2006-16 季刊『創作と批評』主幹
2007-14 延世大学校国学研究院院長
2008 台湾、中国学研究センター客員研究員
2009-10 九州大学韓国研究センター客員研究員
2016-18 延世大学校文科大学学長
2016-23 Inter-Asia School（亜際書院）理事、理事長
2016- 細橋研究所理事長
2018- 延世大学校名誉教授
2019- 湖南師範大学客員教授

主な受賞歴

2017 延世学術賞（延世大学主管）
2023 中国学貢献賞（世界中国研究フォーラム）
2025 庸齋学術賞（庸齋賞運営委員会主管）

主な著書（近年のもの）

- ・『中国現代大学文化研究：アイデンティティ危機と社会変革』ソウル,一潮閣, 1994.
- ・『東アジアへの帰還：中国の近代性を問う』ソウル,創作と批評社, 2000.
- ・『ポスト〈東アジア〉』(共編), 作品社, 2006.
- ・『思想東亞：韓半島視角的歴史與實踐』台北,臺灣社會研究雜誌社, 2009.
- ・『思想东亚：朝鮮半島視角的历史与实践』北京,三聯書店, 2011.
- ・『核心現場から東アジアを問う：共生社会のための実践課題』ソウル,創作と批評社, 2013.
- ・『社会人文学の道：制度としての学問、運動としての学問』ソウル,創作と批評社, 2014.
- ・『横観東亞：從核心現場重思東亞歴史』台北,聯經出版, 2016.
- ・『共生への道と核心現場：実践課題としての東アジア』,法政大学出版局, 2016.
- ・『東アジア和解への道：歴史問題から地域安全保障へ』(分担執筆),岩波書店, 2016.
- ・『中国現代史をつくった三つの事件：1919・1949・1989』ソウル,創作と批評社, 2021.
- ・『百年の変革：三・一運動からキャンドル革命まで』(編), 法政大学出版局, 2021.
- ・『東アジア言説の系譜と未来：代案体制の道』ソウル,ナナム, 2022.

芸術・文化賞 ヴォ・チョン・ギア

【贈賞理由】

ヴォ・チョン・ギア氏は、東南アジアの建築界において、地域の環境や植生に配慮した建築デザイン、竹や木を建築材料として扱う構造デザインなどの一連の作品によって広く知られた建築家である。東南アジアの伝統と現代のデザイン手法や建築技術を融合し、実作を通して、新しい環境建築のあり方に数多くの斬新な提案を行っている建築家として名高い。

ギア氏は、1976 年にベトナムのクアンビン省で生まれ、1996 年に日本政府奨学金を得て来日、名古屋工業大学を卒業後、東京大学にて大学院工学系研究科修士課程を修了している。社会基盤学専攻での修士論文に対して優秀論文賞である古市公威賞が授与され、東京大学総長賞も与えられている。2006 年に VTN アーキテクトを設立、今日までその代表を務めている。この間、2022 年に早稲田大学より建築学の博士号を取得しているほか、イェール大学客員教授(2024 年より)、ペンシルバニア大学客員教授(2025 年より)など、各地の大学で教鞭を執っている。

ギア氏の主な建築作品として、デビュー作のウィンド・アンド・ウォーター・カフェ(ホーチミン、2006 年)に始まり、グランド・ワールド・フーコック・ウェルカムセンター(フーコック、2021 年)に至る広範に竹を構造材・化粧材として用いた一連の建築シリーズ、緑と融合した都市住宅のあり方を示すタン・ハウス(ダナン、2019 年)、セラミック煉瓦壁の通気孔を用いて遮熱と通風に優れた住宅を実現したバッチャン・ハウス(ハノイ、2020 年)、緑化のデザインで最小限のエネルギー消費を実現した開放的なアーバン・ファーマーミング・オフィス(ホーチミン、2022 年)などがある。2010 年の上海万博では、ギア氏はベトナム・パビリオンを設計している。

これらの建築作品に対して、これまでにベトナム建築家大賞 2012(ベトナム、2013 年)、プリンス・クラウド賞(オランダ、2016 年)、ARCASIA(The Architects Regional Council Asia)の 6 度のゴールドメダルなどの数多くの建築賞が贈られているほか、世界経済フォーラムは 2014 年、ギア氏をヤング・グローバル・リーダーのひとりとして選出している。

ヴォ・チョン・ギア氏は、急速な発展を遂げるベトナムにおいて発生する都市課題を解決するための建築のあり方を追究し、熱帯地方においてよく見られる開放的な建物に緑を取り入れ、換気や遮熱を工夫することによって、環境に優しいエコロジカルな建築の姿を説得力を持って提示している。東南アジアにおける若手建築家のトップランナーとして活躍する姿は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

第 35 回福岡アジア文化賞 芸術文化賞

ヴォ・チョン・ギア

ベトナム

建築家

ヴォ・チョン・ギア・アーキテクト創設者、主宰

国立台北大学客員教授、米国ペンシルバニア大学客員教授

1976 年 8 月 25 日生まれ (48 歳)

経歴

- 1976 ベトナム、クアンビン省生まれ
- 1996 日本政府文部科学省奨学金を得て来日
- 2002 名古屋工業大学建築学科にて学ぶ
- 2004 東京大学修士号（工学）建築家・内藤廣氏に師事
修士論文が古市公威賞（修士論文最優秀賞）、東京大学総長賞を受賞
- 2004 ベトナム、ホーチミン市に自身の建築設計事務所「ヴォ・チョン・ギア・アーキテクト」設立
- 2011 ヴォ・チョン・ギア・アーキテクトハノイ支部と施工会社を設立
- 2022 早稲田大学博士号（建築学）
- 2024 イェール大学ノーマン R. フォスター建築デザイン客員教授
- 2025- 台北大学客員教授（瞑想とメンタルヘルス）、ペンシルバニア大学客員教授

主な受賞歴

- 2007 ARCASIA Awards for Architecture/ ゴールドメダル/ *Wind and Water Cafe*
- 2011 ARCASIA Awards for Architecture/ ゴールドメダル/ *Wind and Water Bar*
- 2012 Architectural Record/ Design Vanguard/ *VTN Architects*
- 2014 世界経済フォーラム/ Young Global Leader
Architecture Review Awards/ 1 等賞
ARCASIA Awards for Architecture/ Building of The Year/ *Dailai Bamboo Complex*
ARCASIA Awards for Architecture/ ゴールドメダル/ *Dailai Bamboo Complex*
- 2015 ARCASIA Awards for Architecture/ ゴールドメダル / *Binh Thanh House*
- 2016 Prince Claus Award
- 2017 ARCASIA Awards for Architecture ゴールドメダル / *Son La Restaurant*
RIBA International Fellowships/Winner
- 2019 Dezeen Architect of the Year
ARCASIA Awards for Architecture/ ゴールドメダル / *Castaway Island Resort*

2021 Wallpaper Design Awards1/ 最優秀新築民家部門/ *Bat Trang House*

この他、以下の国際賞を受賞

Green Good Design より 33 つの賞

International Architecture Awards (IAA)より 20 つの賞

Dezeen Awards より 9 つの賞

WAF (World Architecture Festival/世界建築フェスティバル)より 6 つの賞

主な設計建築物

Wind and Water Café, ビンズオン, ベトナム, 2006.

Wind and Water Bar, ビンズオン, ベトナム, 2008.

Bamboo Wing, ヴィンフック, ベトナム, 2009.

Binh Duong School, ビンズオン, ベトナム, 2011.

Stacking Green, ホーチミン, ベトナム, 2011.

Farming Kindergarten, ドンナイ, ベトナム, 2013.

Binh Thanh House, ホーチミン, ベトナム, 2013.

Dailai Conference Hall, ヴィンフック, ベトナム, 2012.

House for Trees, ホーチミン, ベトナム, 2014.

Son La Restaurant, ソンラ, ベトナム, 2014.

Binh House, ホーチミン, ベトナム 2016.

FPT Technology University, ハノイ, ベトナム, 2017.

Nocenco café, ヴィン, ベトナム, 2018.

Viettel Offsite Studio, ハノイ, ベトナム, 2019.

Castaway Island Resort, ハイフォン, ベトナム, 2019.

Thang House, ダナン, ベトナム, 2019.

Viettel Academy Educational Center, ハノイ, ベトナム, 2019.

Bat Trang House, バッチャン, ベトナム, 2020.

Grand World Phu Quoc Welcome Center, フーコック, ベトナム, 2021.

Urban Farming Office, ホーチミン, ベトナム, 2022.